

# 上越市三和区、佐渡を訪れて

川崎 相川義夫（本町五丁目出身）

Jネット秋の交流会として二泊三日（十一月三〜五日）に亘り総勢一四人で上越市三和区と佐渡を訪れました。

紅葉はまだでしたが三日間ともまずまずの好天に恵まれ実に有意義且つ楽しい時間を過ごすことが出来ました。ここにその時の状況をお知らせいたします。

## 【十一月三日（土）】

かつての豪農・富水邸と風巻神社を訪れました。

### 林富水邸

最初は上越市三和区にある上越市文化財 富水邸を訪れました。富水邸は「越後豪農の館」として知られ、先ずはその面積も定かではない程の広大な敷地の大きさに驚かされました。現在御住まいになっているご夫妻二人が往時の姿そのままの母屋と庭を背ににこやかに我々をお出迎

え下さいました。その広い庭は京都の苔寺を彷彿とさせるような一面苔むした地に覆われており、樹齢が数百年もするような杉や松、樅の木等がいかに長い風雪に耐えてきたかを示すように樹肌が枯淡な表情を露わしていました。ご主人は温厚で物静かな方、奥様も品のある美しい方で、我々の愚問にも気持ち良く応対してくださいました。これだけの大きな家を維持してゆくのに例えば茅葺屋根の書き替え等、大変なご苦労があることも垣間見たような気がします。少しばかり絵を嗜んでいる私としてはこの由緒ある文化遺産をモチーフとしてキャンパスにぶつけたい気持ちで一杯になりましたが、心癒される空間についつい時間を経つのも忘れて興味をそそられ通して、描きそびれてしまいました。このような文化財が朽ちることなくいつまでもたいせ

つに保存されるようお願いしつつ後ろ髪を引かれる思いでここを後にしました。

### 風巻神社

次に富水邸からさほど遠くないところにある風巻神社を訪れました。とにかく一〇〇年以上も前に創建された非常に古い神社で、なんでも作物に最も影響を与えるのは風ということで五穀豊穡の神として祀られているようです。小高いところに立つている社でそこで若い宮司さんから我々一人一人の名前を織り交せた祝詞を給わり、靈験あらたかな気持ちになりました。

神社から少し下ったところに社務所があり、伎楽面等珍しい宝物を見せていただきました。現宮司の父上は画家でもあり、上野の美術展で何度も入選されているそうで、作品が数点飾られています。広大な寺領の中に風格を備えた社殿はさすがに近郷の総社に相応しく、しばし静寂と清浄につつまれ心を洗われるひと時でした。

初日は保養施設 米本陣に泊り、飲み食い、語りで楽しい夕べを過ごしました。ここからは越後平野ののどかな風景とその向こうに海が地平線すれすれに僅かに顔を出し、また南葉山に連なる山々のすばらしい風景を眺めることが出来ました。

## 【十一月四日（日）】

米本陣を七時四十五分に出発し、直江津港から佐渡小木港に渡りました。佐渡では小木民族博物館（千石船展示館）、真野御陵、妙宣寺、佐渡相川金山と回りまわりました。

### 小木民族博物館・千石船展示館

宿根木にあるこの博物館は木造の校舎を利用した建物で、中には再現した千石船「白山丸」がところ狭しと建物一杯に展示されています。白山丸にみんなで乗ってあてもないこうでもないと想像を逞しゅうしながら江戸時代後半に活躍した北前船等の当時の回船業に思いを馳せました。

### 真野御陵

鎌倉幕府を倒そうとした所謂「承久の



乱で、失敗し佐渡に流された順徳天皇の火葬塚で、いかにも涙をさそうような寂しいところにあります。当時の佐渡というのはどんなところであつたらうかと、上皇はどんなふうに通じられたのだからかとしばしば歴史のロマンと同時に残酷な一面を見るような思いがしました。

### 妙宣寺

国の重要文化財に指定されているお寺で県内では唯一の五重塔があります。五重塔は期待していたほどのことはなかったのですが、お寺はわりと小じんまりとしているも、その周辺のたえずまい勢囲気は実にバランスのとれている魅力のある名刹で、もう一度訪ねたいと思うほどでした。

### 佐渡金山

いよいよ佐渡最大のスポットである佐渡相川金山に行きました。ガイドさんの指示に従って暗い坑道を下ると左右に鉱脈を掘削、選別、排水、運搬と過酷な作業を強いられる労働者を模して数多くのコンピュータロボットが悲鳴にも聞こえる声を出して美にリアルに動いていました。江戸の華やかな文化を支えていた最下層の人達、まさに金山哀史ともいうべき歴史の暗い断面を見るような気がしました。そしてつい近年まで採掘が行われていたとは驚きでした。(平成元年採掘中止)

金山を後にすると、夕日も沈みかけ、夕

イミング良く日本海のサンセットに出会うことが出来ました。水平線彼方に太陽がゆつくりとその姿を隠していく神々しい光景、まさに旅の舞台の大団円といつてよいでしょう。

この日は老夫婦が運営する民宿「あけぼの荘」に泊り、紅ずい蟹をはじめ美味しい海の幸を食べながら楽しく談笑いたしました。

翌日(五日)は赤泊や小木でお土産を買った後、島を後にしました。

以上、ふるさと周辺の旅の経過ですが、参加者は大体同世代でしたので共に学制改革で出来たばかりの新制中学、新制高校で学び、戦後の混乱期を遮二無二過ごした同じような経験をしている人達です。そんなわけで全然知らないところへの旅と違って勿論懐かしくも愛着はあるのですが、また一方一種独特の感慨を覚えたような気がします。

地方の歴史・文化と人間との係り、更には人間の生き方の根源的なところまでさかのぼって考えさせられる旅でした。



富永邸の庭で記念写真



富永邸の玄関



勝舟の書を前に富永さん



庭からの富永邸



風巻神社での儀式



富永邸でお茶とお菓子をごちそうに



米本陣での宴会



風巻神社の宝物展



米本陣での宴会



米本陣での宴会



ポテトチップを受け取るかもめ



佐渡汽船

# 米本陣・佐渡吟行

中巻 小田切松枝（北城町出身）



妙宣寺



小田切さん

豪農邸 すでに冬めく 昼灯あかり

米本陣を すべり落ちたる 秋灯

蟻螂の 天地逆しま 玻璃はりに攀よつ

たわいなぎ 話のふくる 秋の夜

秋の夜の 母そとの空事 旅枕

はからずも 佐渡にかしこむ 冬立つ日

吟遊ぎんゆうす 大佐渡小佐渡 大花野

仁王尊の 色の剥落はくらく 夕紅葉もみじ

石路つわの花 屋根に石置く 島の路地

身しに入いむや 御火葬跡ごの 暗ちき径

おけさ柿 吊るす日だまり 猫だまり

空稻架からの出番や 佐渡の大根干し

柿干かして 遠流おんるの島を 語り継つぐ

崎端さきはしに 立てば海より 冬の声

海より出いづ 海に沈みぬ 冬落暉らつき

かぶりつく 歯おを持つおうな 冬林檎



大佐渡に沈む夕日



佐渡の民宿での宴会